

無量義經德行品第一

是の如きを我聞きき。一時、佛、王舎城・耆闍崛山の中に住したまい、大比丘衆萬二千人と俱なりき。菩薩摩訶薩八萬人あり。天・龍・夜叉・乾闥婆・阿修羅・迦樓羅・緊那羅・摩睺羅伽あり。諸の比丘・比丘尼及び優婆塞・優婆夷も俱なり。大轉輪王・小轉輪王・金輪・銀輪・諸輪の王・國王・王子・國臣・國民・國士・國女・國大長者、各眷屬百千萬數にして自ら圍遶せると、佛所に來詣して頭面に足を禮し、遶ること百千市して、香を燒き華を散じ、種種に供養すること已つて、退いて一面に坐す。

其の菩薩の名を、文殊師利法王子・大威德藏法王子・無憂藏法王子・大辨藏法王子・彌勒菩薩・導首菩薩・藥王菩薩・藥上菩薩・華幢菩薩・華光幢菩薩・陀羅尼自在王菩薩・觀世音菩薩・大勢至菩薩・常精進菩薩・法印首菩薩・寶積菩薩・寶杖菩薩・越三界菩薩・毗摩訶羅菩薩・香象菩薩・大香象菩薩・師子吼王菩薩・師子遊戲世菩薩・師子奮迅菩薩・師子精進菩薩・勇銳力菩薩・師子威猛伏菩薩・莊嚴菩薩・大莊嚴菩薩という。是の如き等の菩薩摩訶薩八萬人と俱なり。

是の諸の菩薩、皆是れ法身の大士ならざることなし。戒・定・慧・解脫・解脫知見の成就せる所なり。其の心禪寂にして、常に三昧に在つて、恬安愴怕に無爲無欲なり。顛倒亂想、復入ることを得ず。靜寂清澄に志玄虛漠なり。之を守つて動ぜざること億百千劫、無量の法門悉く現在前せり。大智慧を得て諸法に通達し、性相の眞實を曉了し分別するに、有無長短、明現顯白なり。

又能く諸の根性欲を知り、陀羅尼・無礙辨才を以て、諸佛の轉法輪、隨順して能く轉ず。微滲先ず墮ちて以て欲塵を淹し、涅槃の門を開き解脱の風を扇いで、世の惱熱を除き法の清涼を致す。

次に甚深の十二因縁を降らして、用つて無明・老・病・死等の猛盛熾然なる苦聚の日光に灑ぎ、爾して乃ち洪に無上の大乘を注いで、衆生の諸有の善根を潤漬し、善の種子を布いて功德の田に遍じ、普く一切をして菩提の萌を發さしむ。智慧の日月・方便の時節、大乘の事業を扶蔬増長して、衆をして疾く阿耨多羅三藐三菩提を成じ、常住の快樂、微妙眞實に、無量の大悲、苦の衆生を救わしむ。

是れ諸の衆生の眞善知識、是れ諸の衆生の大良福田、是れ諸の衆生の請せざるの師、是れ諸の衆生の安穩の樂處・救處・護處・大依止處なり。處處に衆生の爲に、大良導師・大導師と作る。能く衆生の盲いたるが爲には而も眼目を作し、聾・聾・聾・瘂の者には耳・鼻・舌を作し、諸根毀缺せるをば能く具足せしめ、顛狂荒亂なるには大正念を作さしむ。

船師・大船師なり。群生を運載し、生死の河を渡して涅槃の岸に置く。

醫王・大醫王なり、病相を分別し藥性を曉了して、病に隨つて藥を授け、衆をして藥を服せしむ。

調御・大調御なり、諸の放逸の行なし。猶お象馬師の能く調うるに調わざることなく、師子の勇猛なる、衆獸を威伏して沮壞すべきこと難きがごとし。

菩薩の諸波羅蜜に遊戲し、如來の地に於て堅固にして動ぜず。願力に安住して廣く佛國を淨め、久しからずして

阿耨多羅三藐三菩提を成ずることを得べし。是の諸の菩薩摩訶薩皆斯くの如き不思議の徳あり。

其の比丘の名を、大智舍利弗・神通目犍連・慧命須菩提・摩訶迦旃延・彌多羅尼子富樓那・阿若憍陳如・天眼阿那律・持律優婆離・侍者阿難・佛子羅雲・優波難陀・離波多・劫賓那・薄拘羅・阿周陀・莎伽陀・頭陀大迦葉・優樓頻螺迦葉・迦耶迦葉・那提迦葉という。是の如き等の比丘萬二千人あり。皆阿羅漢にして、諸の結漏を盡くして復縛著なく、眞正解脫なり。

爾の時に大莊嚴菩薩摩訶薩、遍く衆の坐して各定意なるを觀じ已つて、衆中の八萬の菩薩摩訶薩と俱に、座より而も起つて佛所に來詣し、頭面に足を禮し遶ること百千帀して、天華、天香を燒散し、天衣・天瓔珞・天無價寶珠、上空の中より旋轉して來下し、四面に雲のごとく集つて而も佛に獻る。天厨・天鉢器には天の百味充滿溢せる、色を見香を聞くに自然に飽足す。天幢・天幡・天軒蓋・天妙樂具處處に安置し、天の伎樂を作して佛を娛樂せしめたてまつり、即ち前んで胡跪し合掌し、一心に俱共に聲を同じうして、偈を説いて讚めて言さく、

大なる哉大悟大聖主 垢なく染なく所著なし

天人象馬の調御師 道風徳香一切に薫じ

智恬かに情泊かに慮凝靜なり

意滅し識亡して心亦寂なり

永く夢妄の思想念を斷じて 復諸大陰入界なし

其の身は有に非ず亦無に非ず

因に非ず縁に非ず自他に非ず

方に非ず圓に非ず短長に非ず

出しゅつに非あらず没もつに非あらず生滅しやうめつに非あらず
造ぞうに非あらず起きに非あらず爲い作さに非あらず
坐ざに非あらず臥がに非あらず行ぎやう住じゆうに非あらず
動どうに非あらず轉てんに非あらず閑靜げんじやうに非あらず
進しんに非あらず退たいに非あらず安危あんきに非あらず
是ぜに非あらず非ひに非あらず得失とくしつに非あらず
彼ひに非あらず此しに非あらず去來こらいに非あらず
青しやうに非あらず黄おうに非あらず赤しやく白びやくに非あらず
紅くに非あらず紫種種ししゆじゆの色しきに非あらず
戒かい・定じやう・慧え・解げ・知見ちけんより生しやうじ
三昧まい・六通つう・道品どうほんより發ほつし
慈悲じひ・十力じゆりき・無畏むゐより起おこり
衆生善業しゆじやうぜんごうの因緣いんねんより出いでたり
示しめして丈六紫金しやくこんの暉ひかりを爲なし
方整照曜ほうしやうしやうやうとして甚はなはだ明徹みやうてつなり
毫相月ごうそうづきのごとく旋めぐり項うなじに日ひの光ひかりあり
旋髮紺青せんぼつこんじやうにして頂いただききに肉髻にくけいあり
淨眼明鏡じやうげんみやうきやうのごとく上下じやうげに眇まじろぎ
眉睫紺舒みしやうこんじよに方ただしき口頰くきやうなり
唇舌赤好しんせつしやくこうにして丹華たんげの若ごとく
白齒びやくしの四十ななる猶なお珂雪かせつのごとし
額ひたい廣ひろく鼻修はなながく面門めんもん開ひらけ
胸むねに萬字まんじを表ひやうして師子ししの臆むねなり
手足柔輭しゆそくにゆうなんにして千輻せんぷくを具そなえ
腋掌合縵やくしやうごうまんあつて内外ないげに握にぎれり
臂修肘長ひしゆぢゆうちやうにして指直ゆびなおく織ほそし
皮膚細軟ひふさいなんにして毛右けみぎに旋めぐれり

踝膝露現し陰馬藏にして

細筋鎖骨鹿膊脹なり

表裏映徹し淨くして垢なし

濁水も染むるなく塵を受けず

是の如き等の相三十二あり

八十種好見るべきに似たり

而も實には相非相の色なし

一切の有相眼の對絶せり

無相の相にして有相の身なり

衆生身相の相も亦然なり

能く衆生をして歡喜し禮して

心を投じ敬を表して慇懃なることを成ぜしむ

是れ自高我慢の除くるに因つて、

是の如き妙色の軀を成就したまえり

今我等八萬の衆 俱に皆稽首して咸く

善く思想心意識を滅したまえる

象馬調御無著の聖に歸命したてまつる

稽首して法色身

戒・定・慧・解・知見聚に歸依したてまつる

稽首して妙種相に歸依したてまつる

稽首して難思議に歸依したてまつる

梵音雷震のごとく響き八種あり

微妙清淨にして甚だ深遠なり

四諦・六度・十二縁 衆生の心業に隨順して轉じたもう

若し聞くことあるは意開けて

無量生死の衆結斷ぜざることなし

聞くことあるは或は須陀洹・斯陀・阿那・阿羅漢

無漏無爲の緣覺處 無生無滅の菩薩地を得

或は無量の陀羅尼 無礙の樂說大辨才を得て

甚深微妙の偈を演說し 遊戲して法の清渠に澡浴し

或は躍り飛騰して神足を現じ

水火に出没して身自由なり

如來の法輪相是の如し 清淨無邊にして思議し難し

我等咸く復共に稽首して

法輪轉じたもうに時を以てするに歸命したてまつる

稽首して梵音聲に歸依したてまつる

稽首して緣・諦・度に歸依したてまつる

世尊往昔の無量劫に 勤苦に衆の德行を修習して

我人・天・龍神王の爲にし

普く一切の諸の衆生に及ぼしたまえり

能く一切の諸の捨て難き 財寶妻子及び國城を捨てて

法の内外に於て憍む所なく 頭目髓腦悉く人に施せり

諸佛の清淨の禁を奉持して

乃至命を失えども毀傷したまわず

若し人刀杖をもつて來つて害を加え

惡口罵辱すれども終に瞋りたまわず

劫を歴て身を挫けども倦惰したまわず

晝夜に心を攝めて常に禪にあり

遍く一切の衆の道法を學して

智慧深く衆生の根に入りたまえり

是の故に今自在の力を得て

法に於て自在にして法王と爲りたまえり

我復咸く俱に稽首して

能く諸の勤め難きを勤めたまえるに歸依したてまつる